

【7月7日～7月13日】

A. 主な動き

1. 内政

・12日、議会は、鎌と槌のような共産主義的シンボルの政治目的での使用を禁じる法案及び共産主義体制非難に関する法案を採択。同日、議会は、春夏会期の終了を宣言。秋冬会期は9月に開会の予定。

2. 経済

▼国家発展戦略

・11日、議会は、56人の議員の賛成により、国家発展戦略「モルドバ2020」を承認。本戦略は7つの優先事項に焦点を置いており、具体的には教育、道路整備、融資条件改善、透明性のあるビジネス環境整備、省エネルギー、公正な年金システム及び賄賂の無い裁判システムを挙げており、2020年までに12%の経済成長が目標。

▼国家予算

・11日、議会は、2012年の国家予算への歳入及び支出を大幅に減じた2012年の国家予算の修正案を承認。ネグレッツァ財務相は、国家予算への歳入が3億3,400万レイ(約21.4億円)減の見込みであり、支出が4億5,220万レイ(約28.9億円)削減されている旨報告。

3. 外政

▼フィラト首相のグルジア訪問(9～11日)

・9日、フィラト首相は、グルジアを訪問し、サーカシヴィリ大統領との会談において、欧州統合分野における両国協力関係強化の必要性を強調。両者は、双方の国内の紛争解決に関し意見交換。

・同日、同首相は、メラビシヴィリ首相と会談し、欧州統合及

び国内改革の実施に関する経験の共有、「東方パートナーシップ」の枠組みにおける協力、貿易・経済、エネルギー、農業、運輸、観光及び文化交流分野における協力の必要性に関し協議の後、両首相は、モルドバ・グルジア査証免除合意文書等に署名。

・10日、フィラト首相(自由民主党党首)は、バトゥーミにて開催された欧州人民党の「東方パートナーシップ」参加国大会等に出席。

・11日、同首相は、訪問先のバトゥーミにおいてフューレ欧州拡大・近隣政策担当欧州委員と会談し、モルドバ・EU関係に関し意見交換。フューレ委員は、モルドバの改革実施状況を評価し、欧州委員会としてモルドバの欧州統合を支援する旨表明。

4. 沿ドニエストル

▼「5+2」者公式会合の開催

・12、13両日、ウィーンにおいて本年3回目の「5+2」者公式会合が開催され、フォーレ・アイルランドOSCE議長国沿ドニエストル問題担当特別代表が議長を務め、当事者であるモルドバからカルポフ国家再統合問題担当副首相が、沿ドニエストルからシュタンスキ「外相」が出席。会合参加者は、4月に決定した議題の協議を開始し、交渉の基本原則、手続き及び交渉課題に関する合意の発効に関する議定書に署名したほか、キシナウからティラスポリを経由して東へ向かう旅客列車の運行活性化の可能性及び卒業証書の相互認定問題等に関し協議。次回会合は9月に開催予定。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)